

テーマ展

地図と写真でみる近代の福井市街

—城下町福井はどう変わったのか—

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 平成26年7月9日(水)
~8月31日(日)
- 休館日 7月28日(月)

福井駅を中心とする福井市街地の再開発が進む昨今、江戸時代の福井城や近代以降の福井城跡の歴史への関心が高まっています。そこで本展では、明治時代以降の福井城跡がどのように利用され、変化していったのかを、福井市街地の地図や福井城跡の写真などから紹介していきます。

I 版籍奉還・廃藩置県から松平試農場の創設まで（明治初年～明治20年代）

版籍奉還（明治2年）により福井城は軍事的な側面を失って解体されていくことになり、まず辺縁部の門・塀・石垣・土居等の破壊や外堀の埋立てが行われていきました。廃藩置県（明治4年）で福井城が兵部省（のち陸軍省）の管轄になると、軍事上必要として解体は一時止まりましたが、西南戦争（明治10年）など不平士族の反乱が起きると今度は、反乱軍の拠点になる可能性があるとして、中心部の門・櫓なども全て解体されたとみられます。城内の武家屋敷地は、藩主・上級藩士の東京移住や家臣団の転職・帰農に伴ってほとんど空き地となりましたが、明治12年には旧福井藩士たちの創設した交同社が旧城地を借り受けて開墾を進めたり、明治14年には同じく旧福井藩士らが養蚕会社を設立し福井城下10万坪余を買収して桑園にするなど、農地としての開発がなされていたようです。そして明治23年、福井城跡は陸軍省から旧藩主松平家に払い下げられ、明治26年には第18代当主松平康荘によって松平試農場が創設されました。城内はまさに様々な農作物が作られる農場として活用されていたのです。



本丸西側 御廊下橋遠望（明治初年）



敦賀県支庁〔現北陸銀行福井支店付近〕（明治初年）



松平侯爵邸〔現中央公園付近〕（明治42年）



福井県庁〔現西武福井店付近〕（明治42年）

II 福井停車場の開業から県庁の本丸跡への移転まで（明治30年代～大正時代）

明治29年、北陸線の敦賀・福井間が開通し、福井停車場（現JR福井駅）が開業すると、駅前の商業地としての開発が議論されるようになりましたが、その頃の駅前にはまだ福井城の百間堀が残っており、また駅正面の土地は県庁（現西武福井店付近）や裁判所などの官公庁街で、開発の余地はほとんどありませんでした。それまでの福井市街の繁華街は、九十九橋の北と南に広がる江戸時代から続く商業地でしたが、この場所が橋南の大火（明治33年）、橋北の大火（明治35年）により壊滅的な被害を受けると、福井駅前の開発がより注目されるようになります。明治36年には駅前の百間堀が埋め立てられて道幅8間の駅前道路が作られ、明治40年には福井停車場の拡張も行われました。そして大正8年、福井城本丸跡地が松平家から福井県へ無償譲渡されることが決定し、松平試農場は細呂木村（現あわら市）へ移転、替わって福井県庁が本丸跡に移転新築されました（大正12年）。県庁移転により駅前には開発可能な広大な土地が生まれ、商業地へと変貌していくことになります。



福井県庁〔本丸跡内〕（大正13年）



駅前通り〔現電車通り〕（大正13年）

III 福井駅前の繁華街化から戦・震災まで（昭和初年～昭和20年代）

大正14年に県庁跡地が競売に付されると駅前の商業地化が加速します。昭和3年には福井県内初の百貨店「だるま屋」がオープンしました。また越前鉄道・三国芦原電気鉄道（現えちぜん鉄道）や福武鉄道（現福井鉄道）が続々と福井駅や駅前への乗り入れを始めると流入する人口も増え、一層の繁華街化が進みました。そして昭和8年の昭和天皇行幸と陸軍特別大演習に合わせて行われた福井駅前広場や主要道路のアスファルト舗装により、街の風景も近代都市にふさわしいものになりました。一方で商業地化・宅地化のため、駅前近くの三ノ丸・二ノ丸周辺に残っていた堀は埋め立てられてしまい、城下町らしい風景は徐々に消えていきました。それでも堀や石垣が残る場所はまだまだ相当ありましたが、昭和20年の福井空襲、昭和23年の福井地震を経て、戦後の新しい、災害に強い福井市を目指す都市計画とその開発の中で、福井城跡はほぼ消滅しました。

現在、福井城の面影は、県庁等が建つ本丸跡と内堀、本丸西側に復元された御廊下橋、藩主別邸であった養浩館（旧御泉水屋敷）庭園、当館北側に復元された舎人門などに見ることができます。



福井県庁〔御本城橋〕（昭和10年）



駅前通り〔現電車通り〕（昭和10年）

近代福井市街地年表

西暦（年号）	月 日	福井城跡や近代福井市街などに関する事項
1869（明治2）	1月28日	福井藩、版籍奉還の上表を提出する。（6月17日、奉還が許され、藩主は藩知事に任命される。）
	5月22日	藩校明道館を明新館と改称する。
1870（明治3）	3月3日	福井藩主住居を元稲葉屋敷に移転、元御座所建物を元岡部屋敷に移転して掌政堂にあてる。 この年から外堀の埋め立てや城郭の塀の取り払いが本格化する。
1871（明治4）	1月14日	グリフィス、藩校明新館の教師として来福。（12月13日、福井を去る）
	7月14日	廃藩置県。福井藩が廃され福井県が成立。福井城は兵部省管轄となる。
	8月8日	グリフィスらお雇い教師の洋館が完成。
	10月12日	松平茂昭、泉水邸とその西側（現養浩館庭園から歴史博物館までの範囲）を政府より買い取る。
	11月20日	足羽・吉田・坂井・大野・丹生の各郡を管轄する福井県が置かれる。
	12月20日	福井県を足羽県と改称。
1872（明治5）		足羽県により福井城の建物類が入札にかけられる。
1873（明治6）	1月14日	足羽県が敦賀県に合併され、県庁は敦賀に置かれる。
	1月	福井城が「陸軍必要ノ分」として陸軍省管轄となり、先の入札は取り消しとなる。
	2月26日	旧足羽県庁が敦賀県支庁となる。
	8月	明新館、福井私立福井中学と改称する。
	9月	大区小区制が施行される。
1874（明治7）	4月	福井私立中学校、福井明新中学と改称、師範学科が福井師範学校として独立する。 大区小区改正に合わせて、市街地の町名改正が実施され、町の整理再編が行われる。
1875（明治8）	9月5日	敦賀・南条の2郡を除く第8大区から第20大区の区長、県庁の福井移庁を上申。
1876（明治9）	8月21日	敦賀県廃止、越前7郡が石川県となる。 この年より不平士族の反乱が相次ぎ、拠点となる恐れのある各地の城郭は陸軍省により入札に付され解体が進む。福井城の建物も破壊されたとみられる。
1877（明治10）	1月30日	西南戦争が勃発する（～9月24日）。
1879（明治12）	6月	旧藩士たちが創設した交同社、陸軍省より福井城跡を借り受け同地の開拓を行う。
1881（明治14）	2月7日	越前7郡が石川県より、若狭三郡と敦賀郡が滋賀県より分離して福井県が誕生。 福井市が県庁所在地となる。
	4月	旧福井藩士千本信久らが養蚕会社を設立、福井城下の廃宅地など10万坪余を買収し桑園とする。
1882（明治15）	1月	福井県立福井中学校が発足する。
1884（明治17）	8月21日	松平春嶽の選定により、泉水邸の称号を「養浩館」と改める。
1889（明治22）	2月11日	大日本帝国憲法が公布される。
	2月16日	福井県下を1市9町168村からなる市制・町村制の施行区域が確定し、福井市が誕生する。
	6月	松平茂昭、陸軍省に福井城址の払い下げを願い出る。
1890（明治23）	2月	福井城址が代金九千円で松平家に払い下げられ、同3月に引き渡される。
	6月2日	松平春嶽逝去。7月25日松平茂昭逝去。松平康荘が第18代当主となる。
1891（明治24）	10月28日	濃尾地震により福井市域でも大きな被害を受ける。
1893（明治26）	4月	松平康荘、家督相続後初めて福井入りする。
	5月	松平康荘、松平試農場を創設し、福井城址の開拓に着手する。
1895（明治28）	5月	松平康荘、御座所跡に本邸を建築し、福井に住居を移す。
1896（明治29）	7月15日	北陸線の敦賀・福井間が開通し、福井停車場（福井駅）が開業する。
1900（明治33）	4月18日	橋南の大火、1891戸が焼失する。
1902（明治35）	3月30日	橋北の大火、3089戸が焼失する。
	4月5日	市街地で家屋を新改築する際には、屋根を瓦などの不燃物で葺くことを県令により定める。
1903（明治36）		福井停車場前の福井城百間堀を埋め立て、道幅8間（約14.5m）の駅前道路を開設する。
1904（明治37）	2月10日	日露戦争勃発（～38年9月5日）
1906（明治39）	11月	足羽川堤防に桜・楓1000本が植樹される。
1907（明治40）	12月	福井停車場（福井駅）が拡張される。
1909（明治42）	4月13日	市立福井図書館開館。
	7月18日	九十九橋、木造トラス橋への架け替えが完了し渡橋式が行われる。（半石半木の橋は消滅）
	9月16日	足羽山公園の造成工事が完了する。
	9月18日	皇太子（後の大正天皇）行啓。
1911（明治44）	4月1日	福井市、時鐘所を廃止し午砲を開始。

西暦(年号)	月 日	福井城跡や近代福井市街などに関する事項
1914(大正3)		桜の季節に限り旧福井城内が一般開放されるようになる。
1917(大正6)	5月25日	九十九町より出火、民家202戸が焼失する。
	9月1日	屋上制限規制を施行、10年後までに市街地の屋根を不燃材質で葺き替えることを定める。
1918(大正7)	5月16日	佐佳枝上町より出火、民家450戸が焼失する。
	8月13日	足羽河原に集まった群集を中心に米騒動が勃発する。
1919(大正8)	5月7日	宝永下町より出火、民家589戸が焼失する。
		本丸跡地の福井県への無償貸与が決定する。
1921(大正10)	11月	松平試農場の細呂木村山室(現あわら市)への移転が完了する。
1923(大正12)	5月7日	福井県庁、福井城本丸跡に移転新築される。
1924(大正13)	11月8日	皇太子(後の昭和天皇)行啓。
1925(大正14)	4月1日	福井市、時報を午砲から市役所屋上からのサイレンに変更。
		佐佳枝上町の県庁跡地が競売に付され、駅前の市街地化が進む。
1927(昭和2)	1月	福井で最深積雪が209cmに達する豪雪となる。
	4月25日	グリフィス夫妻が来県する。
1928(昭和3)	7月6日	福井駅前の旧県庁跡地に、県内初の百貨店「だるま屋」が開店する。
1929(昭和4)	9月20日	越前電鉄(大野～福井)、福井駅に乗り入れ開始。
	10月1日	三国芦原電気鉄道(三国～福井)、福井駅に乗り入れ開始。
1930(昭和5)	3月	福井駅の拡張整備が完了する。
	10月15日	幸橋が鉄筋コンクリート橋に架け替えられ、渡橋式が行われる。
	11月17日	松平康莊逝去。松平康昌、第19代当主となる(8年6月に東京へ引越)。
1931(昭和6)	1月2日	だるま屋別館「コドモの国」が開館する。11月1日、だるま屋少女歌劇第1回公演。
		大名町四ツ辻から九十九橋北詰(本町通り)に至る道路がアスファルト舗装される。(県内初の舗装道路)
1932(昭和7)	5月14日	福井人絹取引所の開所式が行われる。
1933(昭和8)	7月13日	福井放送局(JOFG)が開設される。
	8月	福井駅前広場がアスファルト舗装される。
	9月19日	九十九橋が鉄筋コンクリートの橋梁に架け替えられる。
	10月	福武電鉄(武生～福井)、福井駅前への乗り入れ開始。
	10月23日	昭和天皇行幸。福井平野を中心に第31回陸軍特別大演習が行われる(～10月27日)。
1935(昭和10)	5月	福井市庁舎が浜町から現在地に移転新築される。
1936(昭和11)	7月20日	福井中学校、吉田郡西藤島村(現藤島高校)に移転新築される。
	12月5日	駅前通りに福屋百貨店が開店する。
1937(昭和12)	5月15日	福井人絹会館、福井市佐佳枝中町に完成する。
1938(昭和13)	4月23日	福井都市計画風致地区として、「福井城址風致地区」「足羽山風致地区」「足羽川風致地区」の3地域185ヘクタールが指定・認可される。
	6月	下馬門内に葵公園が開園する。
		松平候爵邸が順化教育会に無償譲渡される。邸宅の一部は「福城閣」として活用される。
1945(昭和20)	7月19日	福井空襲(午後11時24分～20日午前0時45分。被災面積は約180万坪で市街地の95%)
1948(昭和23)	6月28日	福井地震(午後4時13分頃発生。福井市全戸数の95%、16,903戸が被災)

この年表は『福井県史 年表』、『福井市史 通史編3 近現代』、『越前松平試農場史』、『松平家家譜』などを参考にして作成した。



次回の展示 松平家史料展示室

テーマ展 江戸の装身具

9月3日(水)～10月14日(火)

松平家史料展示室 展示解説シート No.83
平成26年7月9日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 (0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
担当 藤川明宏

印刷 宮本印刷